

第5章 整備基本計画

1 全体計画

空間が持つ特性や景観に配慮して、整備のための空間区分計画及び各空間を結ぶ動線計画を立てる。

1-1 空間区分計画

往時の各曲輪が持っていた空間の役割や地形、現状の土地利用、今後の位置づけ等を総合的に踏まえ、以下の5地区に空間区分し、空間の将来像を定める。

地区	縄長・建造物	現状と課題	将来像
天守曲輪	天守曲輪 (石垣・土塁・土塀) 天守台 天守 天守門 埋門	<p>本丸より独立した象徴的な曲輪。穴蔵*1、附櫓を持つ大きな天守台の上に望楼型天守*2が建築されたが、江戸初期に喪失した。その後、天守門が浜松城の特徴的な存在として維持されていた。</p> <p>現存する天守台・天守曲輪には、古式な野面積が残る。しかし、安政大地震(1854年)後に積み直した部分など一部に危険な箇所がある。天守曲輪は、鉢巻石垣*3と土塀に囲まれ、特徴的な屏風折*4などの横矢*5や武者走*6が見られる。天守門、埋門の遺構が残存している。</p> <p>現天守閣は、天守台天端の約2/3を使って戦後に市民の寄付により模擬的に復興された。耐震性の問題に加え、再建に向けては様々な課題がある。 (資料がなく史実に基づく再建は困難、整備対象時期の相違、市民の広範な盛り上がりが必要)</p>	<p>■城の中枢を体感できる場</p> <p>城の中でも防御性が高く、象徴的な存在であった天守曲輪の様相・性質を体感できる場とする。</p>
本丸西部	本丸西部 (石垣・土塁・土塀) 本丸御殿 富士見櫓 多聞櫓 ※菱櫓 ※鉄門 ※裏門 ※番所	<p>城の防御の中心となる曲輪。天守曲輪の東側に一段低い場所にあり、土塁と鉢巻石垣に囲まれていたが、東半分は小学校や市役所に削られ、西半分が公園に残存している。</p> <p>江戸時代初めには、本丸御殿があり、将軍家との関係を示す重要な場所であったと考えられる。</p> <p>富士見櫓は、発掘調査により城内側は壁を塗り込めずに柱を見せた書院造的な風流な建物であったことが推定され、富士山を眺めながら茶の湯などが催されたと考えられる。</p> <p>特に富士見櫓北側は石垣の崩落が目立つ。樹木の繁茂により、特徴的な横矢や小段が見えない。</p> <p>桜(ソメイヨシノ)等が多く植えられており、主な花見の場所となっているが、密植のため暗い場所がある。また、公園外東側から石垣への眺望が遮られている。</p>	<p>■往時の本丸の姿をイメージできる場</p> <p>■本丸と天守曲輪の二重の石垣を眺める場</p> <p>往時の広大な本丸の規模・形態・性質を理解できる場、本丸と天守曲輪に残存する二重の石垣を眺める場とする。</p>

※対象範囲外に存在していたと考えられる建造物

*1 穴蔵 : 地下室

*2 望楼型天守 : 一重又は二重の入母屋造の建物の上に望楼(物見台)を載せた天守

*3 鉢巻石垣 : 土塁の上部に石垣を築いたもの

*4 屏風折 : 城壁を連続して折り曲げ、城壁全体に横矢を掛けること

*5 横矢 : 正面と側面など二方向以上から攻撃を加えるため、石垣や土塁を折り曲げること

*6 武者走 : 土塁や石垣の上の通路

地区	縄張・建造物	現状と課題	将来像
清水曲輪北部	清水曲輪北部 (土塁・土塀) 空堀 ※錢櫓	<p>本丸虎口脇にあった清水門から天守曲輪南側を細長く取り囲んだ帯曲輪。防御機能を高める空堀があったが、現在は埋められ、遊具が置かれている。空堀を含む曲輪の北部のみが残存している。</p> <p>天守曲輪下の土塁の樹木が繁茂すると、南側から天守曲輪の鉢巻の石垣を望む景観が遮られる。</p> <p>土塁・土塀の一部が公園内に残っている可能性がある。</p>	<p>■中枢部を防御する機能を理解する場</p> <p>城の中枢である天守曲輪を防御するため、空堀を持つ曲輪で取り囲んでいた当時の様相・性質を理解する場とする。</p>
西端城曲輪	西端城曲輪 (土塁・土塀) 端城門	<p>天守曲輪の搦手側の防御のための曲輪。往時は、土塁・土塀に囲まれており、端城門もあった。現在も公園内に遺構が残っていると考えられる。</p> <p>天守曲輪の屏風折の横矢を眺められる場である。</p> <p>身体障害者・高齢者が駐車場から天守曲輪へ向かう動線上に位置する。</p> <p>桜(シダレザクラ)が植えられ、主な花見の場所となっているが、密植のため樹勢が低下し、全体的に暗いイメージの場所となっている。</p>	<p>■天守曲輪石垣を眺める場</p> <p>積極的にユニバーサルデザインへの対応を図り、誰でも快適に天守曲輪の石垣(屏風折)を眺める場とする。</p>
南エントランス	空堀 清水門	<p>本丸一帯の守りの基本となる中土手を持つ空堀が存在していたが、範囲が明確ではない。</p> <p>本丸虎口脇の清水曲輪との境に清水門があったが、削り取られている。</p> <p>公園全体の総合案内所、管理事務所がない。公園全体の歩行者・自転車入口にふさわしい交流の場としての整備、また、東側に隣接する市道・市役所敷地との一体的な整備が望まれる。</p> <p>天守曲輪の石垣を眺める眺望点となりうる。</p>	<p>■浜松城跡全体を理解する場 ■公園全体の情報を提供する場 ■天守曲輪を眺める交流の場</p> <p>浜松城全体を防御するために、前面に空堀を配した縄張を理解する場とする。また、公園全体の歩行者入口として、隣接する市道・市役所敷地を含め、総合案内の場、天守曲輪を眺めながら利用者が交流する場とする。</p>

※対象範囲外に存在していたと考えられる建造物

次頁に「空間区分図」を示す。

